



平成30年1月14日に第6回リハビリテーション学会が『未来に向けたリハビリテーションの挑戦・成長・進化』というテーマのもと東京ビッグサイトにて開催されました。当院主催にて福留大輔技士長を大会長として、当院セラピストによる4演題の発表など総演題数は100演題以上、1,000名以上のグループリハビリ職員が参加し、活発な質疑応答の中で非常に有意義な学会となりました。



編集後記

気が付けば、あっという間の一年でしたね😊 昨年に続き、さらなる新入職者の方がたくさん入職いたしました。するとまたまた名前を覚えるのが大変です♪ともあれ、みんな早く一人前に成長してもらい少しでも多くの患者さまに安心・安全な医療を提供できるプロフェッショナルな一員として頑張っていたきたいものです。先輩方も負けずに最良の医療の提供を目指して本年度も頑張っていきたいと思います♪



広報委員 放射線科 佐藤茂美



日本脳神経外科学会認定専門医研修施設 日本神経学会認定専門医研修施設 日本ドック学会認定施設
医療法人社団 明芳会 IMS YOKOHAMA KARIBA HOSPITAL OF NEUROSURGERY
〒240-0025 横浜市保土ヶ谷区狩場町218番地9号
TEL 045-721-3131 / FAX 045-721-3113

Ortensia vol.10
あじさい
イムス横浜狩場脳神経外科病院

「プラザイムス」は、患者さま、ご家族のみなさまに院内やIMSグループの医療活動、病気に関する情報をお伝えするコミュニケーションペーパーです。

『あじさい～Ortensia(イタリア語)～』の由来は病院脇に咲いていて、花言葉に【辛抱強い愛情】【家族の結びつき】とあります。花言葉の通り、職員一丸となって深い愛情をもって接していきます。



院長挨拶 ~第10号よせて

病院広報誌「あじさい～Ortensia～」は、この度第10刊目を発行することが出来ました。之は偏にご愛読下さいました皆さまのお蔭と、心よりお礼申し上げますと共に、多忙の中刊行に尽力してくれた編集担当者に感謝いたします。

「あじさい～Ortensia～」は、一読してお判り頂けるように、中には職員の笑顔で溢れた写真が賑やかに並んでいます。笑顔は当院の理念である「総ての患者様が納得して満足する医療を提供できる病院」を目指すために、最も大切なものであり、暖かい空気と深い愛情を醸し出す根幹です。

「病院の雰囲気ありのままに表現して伝えたい」との思いを込め、勉強会・納涼会・運動会・忘年会・餅つき大会等々、院内行事総てに全力で取り組み、そして常に笑顔絶やさない職員の素顔と奮闘ぶりをたくさん紹介する事で、この「あじさい～Ortensia～」を手にとられた皆様に、私たちの思いが伝わることを心より願っております。



院長 谷井 雅人

平成30年度 入職式



平成30年度
イムス横浜狩場脳神経

<新任医師紹介>

4月より常勤として着任いたしました
大木 敬章(おおき たかあき)と申します。
グループ病院である横浜新都市脳神経
外科病院・横浜旭中央総合病院を経て、
こちらでお世話になることとなりました。
谷井院長とは、以前の病院でも一緒に
仕事をさせていただいておりました。
日常診療においては最良の
診療で安心と信頼の医療提
供をさせていただきたいと思
っております。
どうぞ宜しくお願い致します。



平成30年4月2日に入職式が行われました。

今年度は、看護部7名・リハビリテーション科14名・薬剤師1名・臨床工学技士1名・社会福祉士1名の、総勢24名の
新入職員を迎えることができました。新社会人となり新しいスタートをきった新入職員の皆さんは、式の中で谷
井院長や櫻井看護部長からの励ましの言葉をいただき、緊張の面持ちで出席していましたが、入職式後の自己
紹介では、出身地や趣味・好きな物の話などで大いに盛り上がりました。その後の新入職員だけの昼食時間
には和気あいあいと同期の親睦を深めていたようです。午後の新人オリエンテーションでは個人情報保護や医療
安全などの必要な初期研修を修了しました。新入職員たちのこれからの大活躍を期待しています。



通所リハビリテーション教室紹介



当院では昨年度から通所リハビリの開設にあたり、現在リハビリの一環として
調理教室と陶芸教室を月に1~2回程度、定期的で開催しています。
調理教室ではその季節の食材や行事に合わせてメニューを考え、セラピストと
患者さまが毎回楽しく参加できるような教室となっています。
陶芸教室ではお皿や茶碗から始まり、回を重ねるごとに皆さん様々な作品に
挑戦しています。
これまでご自宅での調理が中々難しかった方も、教室を通して行えるよう
になったり、陶芸・調理教室に参加することでよりワクワクした気持ちで積極的
に外出する機会が増えたりと、少しずつ活動の幅が広がっています。



看護研究発表会

平成30年2月20日に看護研究発表会が開催されました。看護師が日々、看護
をしながら思い悩んだり、改善したいと感じている事柄を研究テーマとして、
毎年取り組んでいます。今年度は、「抑制帯使用の検討」や「排泄動作を獲得
するための介入」「転倒転落を防ぐための取り組み」「手術時に皮膚損傷を避
ける体位や除圧方法」について、病棟や手術室の看護師がそれぞれ分野で
研究に取り組み、代表者が発表を行いました。
急性期病棟、回復期病棟、手術室ならではの研究
テーマとなっており、患者さまの状態に合わせた専門
的知識や技術の看護について知ることのできる機会
ともなりました。

